

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600050		
法人名	社会福祉法人 光誠会		
事業所名	ケアハウスフローラ		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎551-1		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、「ゆっくり、楽しく、一緒に、ぬくもりのある生活を送ります」を理念とし、職員は笑顔で、入居者の気分、ペースに合わせ穏やかな暮らしが送れるように、支援しています。その為に入居者の方々も表情が明るく落ち着いて生活しています。単調になりやすい施設での生活ですが、当ホームでは生活にメリハリをつけ、気分転換や季節感を感じて頂くために、散歩、買い物の他に、園芸ボランティアの協力による季節の野菜作りや、月一回の外出ツアーを企画しています。外食に行き、自分の好みの物を食べたり、季節の花を観たりし、入居者の方からは楽しそうな笑顔と満足の声を頂いています。地域の方や併設のケアハウス、デイサービスの利用者の方々との交流を図る為、合同レクリエーションや多くの行事に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、その理念が示す通り、高齢者が快適に安心した生活を送るサービスを提供しています。事業所と地域の付き合いは良好で、近所の方の訪問があったり、地元自治会のクリーン活動には積極的に参加したりして、地域の一員として認知されています。多くの趣味クラブがあり、クラブ活動を通して利用者と職員とのコミュニケーションが図られています。また、外出イベントも多彩で、初もうで、イチゴ狩り、足湯、お花見等、季節に応じた楽しみが用意されています。生活の基本である食事は、誕生会をはじめとする、バイキング会等、行事の中で多彩な食事が用意され、利用者の楽しみの一つとなっています。介護計画は、利用者家族の要望を基に、施設長を含む担当者会議を経て、利用者本位で作成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に貼付し、申し送りの時間に唱和して職員の意識を高めている。日常のサービス提供やイベント時等、常に理念である「ゆっくり、楽しく、一緒に…」を意識し、利用者のペースに合わせ様々な場面で、支援している。	職員への意識づけが徹底していて、食事、入浴、健康管理、日常生活介助等の生活場面で理念をふまえた支援の場面がみられました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のクリーン活動、アルミ缶回収、敬老会等の行事に参加し協力している。地域の祭りや運動会にも招待されており良い関係作りが出来ている。	年二回実施されている地域の清掃(ごみ、缶、ペットボトルなど)に利用者と共に参加している。地域の敬老会の招待を受けて参加したり、施設の地域交流事業としての食事会に地域の人を招待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や町内の女性部の方を対象に、認知症の理解を深めて頂けるよう研修会等の活動に取り組んでいる。民生委員を対象にした施設見学会を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームに関する全てを報告し、出席者より意見や要望を聞き、それを入居者対応に活かし、イベントや行事の質の向上に取り入れている。	利用者家族、自治会長をはじめとする地域の人、町の担当職員、地域包括支援センター職員などの参加があり、そこでの情報や出された要望、意見を取り入れてサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	懸案事項等は、町担当者や包括支援センターと連絡を取り、その都度解決を図っている。特に運営推進会議には、毎回、町の担当者が出席しており、指導を受けている。	地域に向けた活動としてオレンジリング活動があげられます。また、町との連携により今年度は民生委員の見学会が実施されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や、法人としての委員会活動、内部研修を行い、全職員の意識を高め、徹底に努めている。	個々の利用者の日常の行動傾向を把握しています。外に出たい様子が見られる利用者を集めたごみを捨てに行き、周囲を散歩する姿が見られました。近所の人から通報などの協力も得られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情解決委員会、事故解決委員会を中心に全体内部研修を行い、虐待に関する勉強会を通して全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設では月に一回ケアマネ会議を行なっている。会議時には、成年後見制度を活用している入居者がいるので、その事例検討会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、契約書、重要事項説明書の内容を全て読み上げ分かりやすく説明し、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との個人面談を年二回実施し、何でも話し合える雰囲気作りをしており、意見や要望を話し合い、運営に反映させている。また、運営推進会議でも外部の委員を含めて話し合い、運営に反映させている。	通院の付き添いが大変だという家族の要望や急な対応が困難という家族に対して、当法人の介護輸送サービスの説明を行い、要望に合わせて実施しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長との個人面談を年二回実施している。運営に関する職員の意見は、全体会議の議題として取り上げ、全職員で話し合い、運営に反映させている。また、年二回食事会を設け意見の交換が出来るようにしている。	年二回の職員食事会は、代表者や管理者と職員間のコミュニケーション手段として有効であり、運営に関する職員の意見や提案を聞く場となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長の職員個人面談年二回の実施、管理者主任による面談を年三回実施している。個人管理票に基づいて、職員個々の状態把握し、職場環境を良くするように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別管理表を作成するため、各職員との面談を行い、本年の課題と重点テーマを設定する。新人研修は、トレーナー制度を活用して職員の質を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設見学で交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し、受け止め共有している。表情から職員が声をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時には、家族の状況や困っている事、不安な事等を十分に傾聴し受け止めている。入居者によっては、慣れるまで時間がかかるので家族との関係を密にしていかなければならない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括センターや居宅ケアマネと連携をとりながら、必要としていることを見極め、家族の負担が軽減できるように援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務としてではなく共に生活しているという姿勢を持ち、日常生活の中で知恵を伺ったり、作業をお願いしたり、相談を持ちかける等、横の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年二回家族との面談を実施するとともに、入居中のIADLの変化等を敏感に察知して家族と一緒に本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来られている。併用のサービスを利用している馴染みの人に会う機会が多い。	近所からの法人関連事業所利用者が多いため、散歩中にケアハウス、デイサービス利用者との出会いがあります。一人の入所者が親類や近所の人に、入所を知らせるハガキを出したところ、次々と訪問者があり、驚いたそうです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性を常に見守り、入居者同士で会話が楽しめるように支援している。、誕生会や昼食作り等で他入居者への思いやりの気持ちを持って頂けるような関係作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議の通知やフォローまつりのお知らせを出したり、いつでも相談に乗れる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴、趣味やご家族の意向を把握し、クラブ活動等に参加している。困難な場合は職員と一緒にいる。	利用者の主張は否定しないということを徹底しています。表情や行動から推察するなどメモ表を活用して意向の把握に努めています。またクラブ活動が充実しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や、趣味を本人やご家族にお聞きし、家族の意見意向を聞きながら以前担当していたケアマネや包括支援センターの職員とも連携を図り、実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体ミーティングを利用し全職員で話している。週ミーティング時やその都度職員が気付いた事を状況に応じて日々話し合う場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と年二回面談を行なっている。面会人にも本人の状態の変化があった時にはその都度面談し家族の意見意向を取り入れ、月一回の全体ミーティング時、全職員からのアンケートを基に担当者会議を行ない、話し合い聞きまとめ計画書を作成している。	利用者の現状や要望などを、計画作成前に全職員からアンケート方式で意見を聞き取り、家族との面談で得た意見や要望をもとにして、全体会で順次検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を見ただけで状態が分かるよう会話や行動を具体的に記録している。ケース記録を分かりやすいよう状況によって色別で記入している。個々での面会シートを活用し家族からの情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋のショート利用サービスの体制を整えている。通院介助、買い物サービスを提供したり、施設全体で実施している合同イベントやクラブ活動の参加等要望に合わせて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の行事に参加したり、保育園や地域ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医と事業所とのより正確な情報交換の為、独自に作成した通院シートを利用し連携強化に努め、定期的に通診している。家族による通院介助が難しい場合は介護輸送システムを導入し通院を支援している。	協力医療機関はありますが、かかりつけ医が基本になっています。家族に渡す通院シートには利用者の日常の様子や出来事が記入されていて、ドクターからの返信もしくは家族の聞き取りの記載があり、連携がとられています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携を取り、相談しながら適切な受診や健康管理のアドバイスを受け、その都度対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際担当の看護師やOPTPなどに会い、現在の状況や状態把握を行ない主治医に退院に向けての意見を聞いて頂いたり、退院の為に条件等を伝えて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族の協力が得られない限り、当施設での看取りは行わないことを明確にし、契約時に説明し理解を頂いている。	緊急対応マニュアルが設置されていて全職員に周知されています。緊急時は救急車対応ですが、持参する資料がファイルされ直ぐ持ち出せるようになっています。	認知症対応型のグループホームとして看取りは、重要な職務と考えておられるようです。主治医との連携、職員の心構え等、できることからスタートされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム会議時の勉強会や内部研修を開催し、定期的に急変時等の訓練を行っている。急変時にスムーズに対応、引き継ぎ出来るように急変時用ファイルを作成した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けて、施設での消防訓練を行っている。災害時に備え、地域や地元の方々に協力の呼びかけを行っている。火災、地震対応マニュアルを作成している。施設の防火設備としてスプリンクラーを設置してある。	避難経路の確認、非常持ち出し用のバックが玄関に備えてあります。夜間、昼間想定避難訓練を年2回実施しています。非常時には近所の人の協力が頂けるような関係が出来ています。又、必要物資の備蓄はできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した言葉かけや誇りを汚さない配慮をしている。「心構えチェック」を実施している。	利用者に対しては「さん付け」を基本としています。職員の自己評価「心構えチェック表」を利用し、共通認識を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望により各クラブへの参加や散歩、屋内レクへの参加をされている。外食時には食べたい物を選んで頂いたり、昼食会でのメニューも希望を聞いて取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し希望を優先できるように心掛け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時、本人と一緒に衣類を選んでいる。家族、職員と散髪に外出している方もいる。職員がカットしている方等希望に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理の無いように準備、片付けを職員と一緒にやっている。手作り昼食会時(誕生日)にはリクエストを取り入れている。使い慣れたお箸、器具を使用している。	役割を決めて、それぞれの出来ることを職員と一緒にを行っています。手作り昼食会は買い出しから全て、職員と利用者で作っています。普段の食事は給食協会の献立を利用し、給食棟で調理したものを配膳していますが、ご飯と味噌汁及びおかず一品はホームの調理場で作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用し、状況の把握に努めている。お茶が苦手な方にはスポーツ飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施の声掛けを行なっている。週一回入れ歯洗浄剤を使用し洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの訴えが無い方には時間を見て声掛け、誘導を行なっている。トイレ時は見守り、手洗いの声掛け、出来ないことは介助している。	利用者自身の安心の為にリハビリパンツ、パットを使用する人もいますが、自立度の高い利用者が多いので見守り、声掛けの支援が主です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、下剤を使用している入居者もいるが、出来るだけ使用しないように水分補給や毎朝のラジオ体操の実施、散歩等の声掛けを行なっている。便秘気味な方はトイレチェック表を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の入浴の希望を確認し、ゆっくり入浴できるように支援している。イベント風呂「ゆず、ももの葉、みかん」風呂を行ったり、入浴剤を入れ季節感を感じて頂いている。	木曜(ミーティング)と日曜(リネン交換)以外は入浴ができます。入浴介助と着脱介助と2名の職員が支援しています。入浴の好きな利用者が多いです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居間で皆さん一緒に生活して頂き、一日のリズム作りを心掛けている。使い慣れた寝具類を使用していただいたり、居室内の照明調整を希望に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の処方内容のファイルにより、服薬一覧表を全職員がいつでも確認できるようにしている。医師からの伝達等、通院シートを活用し全職員に回覧し、把握に努めている。不明疑問点は看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の出来ることを把握し洗濯物干し、たたみ、料理、掃除等役割を持っていただけるようにしている。合唱、散歩、クラブ等参加の希望に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って散歩に行ったり、季節を感じられる場所への外出を企画している。家族といつでも外出できるような体制を整えている。	日常的な外出として、利用者一人ひとりが出かけた時間に散歩に行きたいという希望は、叶えられるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かっている為、外出時にはお金をお渡しし、自由に買い物して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除をしている他、汚れに気付いた時にはその都度掃除をしている。館内には、季節に合わせた花や作成した作品を飾っている。	玄関前に置かれている椅子は靴の着脱に便利でずし、のんびり日向ぼっこが出来ます。廊下の長椅子に座って壁に貼られた歌詞を見ながら懐かしい歌を唱和している利用者がいました。事業所内にはクラブ活動で制作した作品が適度に飾られて和やかな雰囲気をだしていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチやソファがあり、畳スペースにはこたつがあり、一人一人が思う様に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやイス等を使用している。本人、家族、職員と一緒に家具やベットの配置を変更している。部屋にクラブ作品を飾っている方もいる。	ケアハウスとデイサービスの利用者と一緒にクラブ活動していますが、そこで制作した作品が飾られていたり、孫さんの作品が飾られている部屋がありました。家族の持参したマスコットをドアノブに下げている部屋など、個性豊かです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と書いてあり、居室には表札や飾り付けをしたりし、間違えないように工夫している。クラブ活動等ホワイトボードにてお知らせしている。		